

(様式 4 : 全対象事業共通)

令和 3 年度第 1 回エネルギー構造高度化・転換理解促進事業評価報告書

補助事業名	赤井川村再生可能エネルギー利活用事業詳細調査
補助事業者名	赤井川村
補助事業の概要	<p>本事業では、令和 2 年度赤井川村エネルギービジョン調査に基づき、再エネ導入プロジェクトによる村の経済活動を活性化させる事業を構築することにより『やすらぎと感動の赤井川 人が集まる美しいカルデラの里』を目指すことを目的とする。</p> <p>令和 3 年度は、令和 2 年度エネルギービジョン調査で地場産業振興の貢献に有望と位置づけられた小水力発電、既存温泉熱高度利用、地熱発電等の再エネプロジェクトの詳細事業可能性調査並びに基本設計等を実施し、プロジェクトの具体化を図る。</p> <p>プロジェクトの具体化に向けては、以下の項目を実施する。</p> <p>(1) 轟小水力発電事業化詳細調査</p> <p>小水力発電設備の導入予定地である白井川のサクラマス幼魚調査、流量調査、並びに現地測量、地質調査を行うことにより、具体的な事業計画を作成し基本設計を行い、事業化に向けた検討などを行う。</p> <p>(2) カルデラ温泉、体育館並びに農業振興センターにおける再エネ導入事業可能性調査</p> <p>本調査では、老朽化したカルデラ温泉赤井川 2 号井の設備更新に関する「カルデラ温泉新規泉源（赤井川 3 号井）掘削検討」並びに、赤井川 3 号井から湧出が見込まれる温泉熱のカスケード利用を想定した「カルデラ温泉、体育館並びに農業振興センターにおける再生可能エネルギー利活用検討」を行う。</p> <p>(3) 阿女鱒岳地熱資源活用調査</p> <p>阿女鱒（あめます）岳地域において実施されている民間企業による地熱発電の事業化に対して、事業化に向けた調査の実施やエネルギーの地産地消に向けた民間主導の事業に関する地域の理解促進に資する地熱資源活用調査を行う。</p>
総事業費	61,588,781円
補助金充当額	61,588,781円
定量的目標	<ul style="list-style-type: none">・本事業の住民向け広報の実施及び広報誌での記載・再生可能エネルギー（電力）の導入と村有施設での再エネ利用の達成
補助事業の成果及び評価（事業毎にあらかじめ設定した事業目標を達成したかなど）	令和 2 年度エネルギービジョン調査で地場産業振興の貢献に有望と位置づけられた小水力発電、既存温泉熱高度利用、地熱発電等の再エネプロジェクトの事業可能性調査並びに基本設計等

	を実施し、プロジェクトの進捗を図った。	
補助事業の実施に伴い締結された売買、貸借、請負その他の契約 (※技術開発事業のみ：間接補助を行った場合は、間接補助先を記載)	契約(間接補助)の目的	①赤井川村小水力発電事業化詳細調査 ②赤井川村構造改善センター・赤井川村体育館並びに赤井川村農業振興センターにおける再生可能エネルギー導入等調査 ③阿女鱒岳地熱資源活用調査
	契約の方法	①随意契約 ②指名競争入札 ③随意契約
	契約の相手方(間接補助先)	①三井住友建設株式会社北海道支店 支店長 石田 直樹 ②北電総合設計株式会社 代表取締役社長 古谷 恵一 ③出光エンジニアリング株式会社 代表取締役社長 狩野 保英
	契約金額(間接補助金額)	① 47,300,000円 ② 10,835,000円 ③ 3,300,000円
来年度以降の事業見通し	<p>轟小水力発電事業化詳細調査により、旧轟水力発電所を利用した小水力発電所の基本設計を行ったことで、河床、護岸等新たな土木工事の必要性や事業費の増加、工期の長期化等新たな課題が浮き彫りとなった。また、水利協議に必要となる魚類生息調査については、対象魚種(サクラマス)の生活サイクルが3年1サイクルであるため、次年度も引き続き調査を続ける。</p> <p>カルデラ温泉、体育館並びに農業振興センターにおける再エネ導入事業可能性調査では、農業構造改善事業で整備したカルデラ温泉を中心とした各施設への熱供給のための泉源掘削の設計を行ったことで、再生エネルギー導入に関するメリット・デメリットを整理した。次年度は、CO2削減並びにエネルギー構造転換を進めるため、熱源の泉源掘削及び熱利用システムの設計を実施する。また、赤井川村農業振興センターの育苗棟で利用する温泉熱の利活用を検討するため、温泉熱等導入可能調査を実施した。関係者へのヒアリング等から熱源システムの検討を行い、経済性、省エネ性の比較を整理した結果、既存の泉源では、温度が低いこと、省エネ・CO2削減効果少ないことが整理された。そのため、木質バイオマスボイラーを主熱源として、バックアップとして高効率ボイラーの採用が適していることが判明したため、機器更新を行う場合は、上記の組み合わせを検討する。</p> <p>阿女鱒岳地熱資源活用調査では、熱エネルギーの運搬方法や利</p>	

	<p>活方法をまとめることで赤井川村の農業や観光における熱利用の可能性を整理した。</p> <p>今後は、地域のエネルギー構造転換、脱炭素な村づくりを進めるため、これらの調査やエネルギービジョンを再考察し、村の経済活動の活性化や 2030 年に向け、まち、くらし、しごとに寄与する持続可能な「ゼロカーボンビレッジ akaigawa 推進戦略」の実現方策を村民及び関係機関等との対話を通じて構築を進めることとしている。</p>
--	--

(備考)

- 1 事業完了した日から3ヶ月以内の提出をお願いします。
- 2 定量的成果目標の欄には補助金応募申請書提出時に設定した成果目標をそれぞれ記載すること。
- 3 補助事業の成果及び評価の欄には、公募要領8. で記載した内容に対応した、定量的な成果実績と評価を記載すること。それ以外にも、定性的な成果実績や、進捗度、利用量並びに効果等といった別の定量的な指標があればできる限り数値を用いて記載すること。
- 4 契約の方法の欄には、一般競争入札、指名競争入札、随意契約の別を記載すること。間接補助を行った場合は、記載不要。
- 5 来年度以降の事業見通しの欄は、本事業に来年度以降も補助金を充当しようとする場合のみ記載。